

令和3年度 墨田区立第二寺島小学校 経営報告書

令和4年3月18日

学校目標	豊かなつながりと挑戦の中で、知・徳・体の調和のとれた児童を育む学校 ・よく考えて工夫する子 ・思いやりがあり助け合う子 ・体力のある元気な子 ・ねばり強くやりぬく子
目指す学校像	TEAM 二寺 総合力で高め合う学校 組織的・計画的な運営、学び続ける教員、家庭・地域との協働
目指す子供像	<ul style="list-style-type: none"> よく考えて、工夫する子 「自ら考え表現できる児童」 基礎・基本や学び方を身に付けている子 自ら問いや課題を見付け、工夫して遊び学び行動する子 思いやりがあり、助け合う子 自己肯定感・自己有用感をもつ子 自他を大切にし、おもいやりある行動がとれる勇気のある子。 体力のある、元気な子 遊び・運動が好きな子 健康のため自己管理ができる子 ねばり強く、やりぬく子 自己や仲間のために自己の能力を発揮する子 リーダーシップ・フォロアーシップを発揮し協力して活動する子
目指す教師像	<p>教職員の基本姿勢 「学校は子供たちのためにある」「1人ひとりの良さを引き出す指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめを絶対に許さず、偏見や差別をなくす人権尊重教育の徹底に努める。 ○特別支援教育への理解に努め、一人一人の良さを引き出し、勇気づける指導を進める。 ○保護者と共に、児童の成長を喜び合う。 明るさ温かさを根底にしなが、子供の思いを受け止め、良いことと悪いことを明確に教え、根気よく励ます。(体罰・暴言はあってはならない。) ○分かる・できる喜びのある授業・教育活動を追求し、日々研究・研修に努める。 ○保護者・地域と温かい関係を築き、共によりよい教育環境・居場所を創造する。 ○組織的に協働し、プラス思考で発信できる。

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	A	学力向上の組織的な対応が進んだ。区・全国の学力状況調査では、ほぼ、全校平均を上回った。タブレット端末を活用し授業が展開された。今後も、児童の主体的な学びを目指し、課題解決型の学習を推進していく。	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	特別支援コーディネーターを2名にし、校内委員会が定期的開催され、学びの教員・巡回心理士・SC・区のスーパーバイザー・医師など連携が進み、対応が組織的計画的に進んだ。個別の支援が進み、学習成果が上がっている。今後も関係機関との連携を充実させ、実態の分析・アセスメント・改善策と、途切れなく支援を進めていく。	B	A
	学校は、子供の将来の自立に向けた進路指導・相談活動に取り組んでいるか。	C	キャリアパスポートを全学年で実施し、発達の段階に応じたキャリア教育を進めている。今後内容をさらに充実させていく。コロナの感染状況により、特別活動(直接交流する縦割り班活動などの異学年交流)等計画通りには実施できなかった。リモートを活用した実施を進めた。今後は、交流の方法をさらに工夫する。	B	B

様式 4

<p>学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。</p>	<p>B</p>	<p>課題解決府型の授業への転換を進め授業改善を中心とした、校内研究を進めている。主体的に児童が課題解決に取り組むよう、タブレット活用も含めた研修・研究が進んだ。授業観察を年間3回以上実施し、面談時に課題と成果を確認している。今後も、校内での研修や、指導教諭の授業参観、各職層の研修を意図的に受けさせ、相互に学びあう集団となるように計画していく。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>
<p>学校関係者評価委員会の意見等</p>		<p>・様々な子供たちの個人差に応じた、指導や活動を行うことの大変さを感じる。・タブレット端末を活用しての学習を今後もより進めてほしい。・教職員の指導力向上には様々な取り組みが考えられる。</p>		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	A	<p>情報共有には ICT を活用して、いじめ・不登校・問題行動への対応を組織的に行うようにしてきた。特に、担任の家庭訪問や外部関係機関（S W・子育て総合支援センター）との連携・タブレットでのリモート授業が展開され、不登校児童の登校復帰・学級との関係作りにつながった。</p> <p>生活指導の基本ラインを全教職員が確認し、児童の規範意識の醸成や主体的な行動を引き出すようにしていく。特に、SNS のモラル向上は毎月の取組としていく。</p> <p>アンケートを実施し、児童が相談しやすい体制を作ってきた。今後も全教職員が、全学年の児童との関わりを増やす取組を進める。</p>	A	A
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	<p>「時間」「礼儀」「責任」を基本に、児童の主体的な行動を認め繰り返し、指導を重ねてきた。基本的な生活習慣と「新しい生活様式」は定着している。また、制限のある中、学習活動や行事を工夫し、児童の達成感や自己肯定感・相互理解を高める活動を継続した。</p> <p>ストレスをためている児童も見受けられる。温かい豊かな関りの場や、体験的な活動など、工夫した活動を計画していく。</p>	B	A
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	B	<p>登校班指導を保護者と連携して行い、安全に登校することができている。年間の安全指導を計画的に進めている。学校のタブレット端末でのトラブルはなかったが、校外で個人的なスマートフォンでのトラブルが見られた。児童と SNS 学校ルールの見直しを進め、使用時のルール作りなど自分事としてとらえるよう指導していく。「自分の身は自分で守る。」様々な場面での危機への感度・対応力をあげるよう、安全教育を進める。</p>	B	A
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	B	<p>フォームスにより、WEB でのアンケートを進めてきた。行事でのアンケートなど、成果や課題が明確になった。10月から C O C O O [区の新しい情報メール] を導入し、保護者アンケートについては回収率が大きく上がった。(家庭数の9割)</p> <p>個人面談も2回実施し、必要な保護者とは随時の面談を行った。また、PTA 会長等から、保護者の要望も聞き取り、即時改善できることは、対応を進めた。</p>	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等		<p>・「時間」「礼儀」「責任」の基本指導を含め、主体的行動の中に「目指す子供像」必要である。</p> <p>・WEB アンケートの回収率が上がっている。・適切な生活指導、必要に応じた個別対応が実施されている。・情報共有が大切・登校班制度（朝）継続して取り組んでほしい。下校の安全確保など、新たな取り組みも検討してほしい。</p>		
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	A	<p>分掌組織を改編し、組織的運営が進んだ。今後も、学校のグランドデザインを共有し、チームとしての動きをさらに活性化させるために、役割や年間の計画と進行管理を主幹・主任教諭が中心となって進める。</p>	A	A

様式 4

の 管 理 運 営	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	学力では向上が見られている。コロナ禍の中、体力面での取組の充実が必要である。区の学力状況調査・意識調査・運動能力調査を分析し、発達の段階に応じた目標を設定し、具体的な学力向上・体力向上への目標を設定する。3期に分けて、実施状況を共有していく。	B	A
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	感染予防の対策について重点的に進めた。全児童のパーティション・サーキュレーター・空気清浄機・自動水洗・消毒関係の物品設置など、「新しい生活様式」を組み込んだ環境づくりを進めた。今後も、引き続き環境整備を行う。GIGA構想のもとタブレット端末の配布など教育活動が変革期にある。従来の教育活動とのバランスを取りながら、本校の自然環境を生かした、体験的な活動が展開できるよう、さらに環境を整える。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に運営判断の難しい2年間であったと思われる。 ・コロナ禍で見えてきた課題は本質が隠れている。 ・体育館が学校規模と対比して狭隘であり地域防災拠点としても建て替えを望む。 ・体験が限られるもどかしさがあった。児童館も模索を続けている。 			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家 庭 ・ 地 域 連 携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	学校の感染状況を情報メールにより随時配信し、保護者にも協力を得られた。HPでは、各学年のHPに教育活動を配信してきたが、今後はさらに、ICTを活用し、教育活動を積極的に配信していく。	B	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	感染予防をしながら、授業参観が実施できた。また動画での保護者会を実施し、事後にアンケートを実施した。今後も。感染予防を図りながら、個人面談・授業参観・保護者会などの機会を設け、学校教育への保護者の理解をさらに得られるようにする。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも、感染予防をしながら保護者と対面での関わりを進めることが、学校教育への理解を深めるのに大切である。 ・保護者との情報連携には、教職員の負担とならないような形で、より密になると良い。(タブレットのWEB面談などの工夫) ・HPの活用には少し限界もありそうである。保護者がアクセスしやすい仕組みを、PTAも一緒に考えたい。 			

2 令和3年度学校評価のまとめ

今年度も行事の参観などが関係者には十分行えなかったが、最後の学校運営連絡協議会で、リモート授業の実際を参観いただけた。また、会の中では、コロナ過の中でも、子供たちの学びを止めることなく、進められたことに賛同を得た。様々な資料を精査の上、標記のような具体的なお指摘・助言もいただけた。学校生活では「新しい生活」が定着した。今後は、制限がある中でも、地域や人との関わりやつながりをもう一度再構成し、保護者・地域の信頼を得て、教育目標の達成・児童の健全育成・教育課題の解決に向けて教職員一同邁進していく所存である。

以上の通り報告いたします。

墨田区立第二寺島小学校 校長 中村 奈緒美 公印